

令和7年度（2025）全国都道府県対抗男女駅伝競走大会
代表選手選考基準

● 選考方法

- ① 各大会とも、代表選手選考基準をもとに強化部会で選考する。
- ② 選考は、次の手順で行う。
 - ・各大会の選手選考は、選考基準及び手順①～③の順で選考する。
 - ・選手選考基準を満たしている選手でも、選考時に故障や体調不良と判断した選手は、選考の対象から外すことがある。
- ③ 記録は全て公認記録とする。

● 選考基準及び手順

◆ 第44回全国都道府県対抗女子駅伝 2026年1月11日（日） 京都市

〈 一般 〉 ふるさと選手がいる場合には、出場依頼をする。

- ① 日本陸上競技選手権大会5000m・10000m 入賞者。
 - ② ①の条件で規定の人数が選考できない場合、4月1日から12月7日までに10000m33分00秒以内の記録を持つ選手を選考の対象とする。
 - ③ ①②の条件で規定の人数が選考できない場合、4月1日から12月7日までに5000m16分00秒以内の記録を持つ選手を選考の対象とする。
- * 4月1日から12月7日までの競技会成績・記録・ロードレース・駅伝等の結果を総合的に判断して選考することがある。

*

〈 高校生 〉

- ① 全国高等学校総合体育大会3000m 出場者から3名選出する。
- ② ①の条件で規定の人数が選考できない場合、4月1日から11月30日までの3000m 記録上位者から選考の対象とする。

〈 中学生 〉

- ① 全日本中学校陸上競技選手権大会1500m 決勝進出者。ただし、複数名進出をした場合には決勝の結果の上位2名までを選考する。
- ② ①の条件で規定の人数が選考できない場合、最終選考会「11月23日（日）」3000mの記録で、原則的に上位の選手から選考する。

一般・高校・中学の都道府県対抗駅伝代表選手は12/27・28の合宿と1/4の練習会に必ず参加するものとする。

〈 一般 〉 みるさと選手がいる場合には、出場依頼をする。

- ① 日本陸上競技選手権大会5000m・10000m入賞者。
 - ② ①の条件で規定の人数が選考できない場合、4月1日から12月7日までに10000m28分10秒以内の記録を持つ選手を選考の対象とする。
 - ③ ①②の条件で規定の人数が選考できない場合、4月1日から12月7日までに5000m13分40秒以内の記録を持つ選手を選考の対象とする。
- * 4月1日から12月7日までの競技会成績・記録・ロードレース・駅伝等の結果を総合的に判断して選考することがある。

〈 高校生 〉

- ① 全国高等学校総合体育大会5000m出場者から3名選出する。
- ② ①の条件で規定の人数が選考できない場合、4月1日から11月30日までの5000m記録上位者から選考の対象とする。

〈 中学生 〉

- ① 全日本中学校陸上競技選手権大会3000m決勝進出者。ただし、複数名進出をした場合には決勝の結果の上位2名までを選考する。
- ② ①の条件で規定の人数が選考できない場合、最終選考会「11月23日(日)」3000mの記録で、原則的に上位の選手から選考する。

一般・高校・中学の都道府県対抗駅伝代表選手は12/28,1/4の練習会との1/10,11の合宿に必ず参加するものとする。

令和7年度（2025）国民スポーツ大会（滋賀国スポ）代表選手選考基準

● 選考方法

1. 神奈川陸上競技協会が指定する国スポ選手選考競技会に出場している選手であること。
（日本陸連から発表される「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特別措置」に該当する選手は除く）
2. 各種別の選考の条件を満たしている選手を、強化部会が総合的に判断し選考する。
3. 選考基準を満たしている選手でも、選考時に故障や体調不良と判断した場合は、選考の対象から外す。次の①～④の順番で選手を選考する。
①第1次選考：上位入賞が確実な選手 ②第2次選考：入賞が確実な選手
③第3次選考：入賞が期待できる選手 ④第4次選考：入賞の可能性のある選手

● 選考資料

1. 2025年4月1日～8月11日までの各競技会の記録を用いる。（但し室内記録は除く）
※2025年3月の競技会結果を参考資料とする場合もある。
2. 2025年の日本・高校ランキングを用いる。（専門機関誌が配信するWed等。但し、室内記録は除く）
3. 他都府県のエントリー予想一覧や過去の国体での入賞記録一覧等を用いる。（強化部が作成する資料）

● 選考基準及び手順

（1）第1次選考基準

- 〈 成年 〉 次の2つの条件を満たしている選手を選考の対象とする。（複数の選手がいる場合は、①を優先とする）
- ① 日本選手権6位以内 ② 2025年度 日本ランキング6位以内
- ★300mの選考は200mと400mの成績を上記の選考条件①②に準ずるようにする。ただし1次、2次選考に複数該当者がいる場合、種目特性を踏まえ総合的に判断することがある。
- 〈 少年A・少年共通 〉 次の2つの条件を満たしている選手を選考の対象とする。
（複数の選手がいる場合は、①を優先とする）
- ①全国高校総体6位以内 ②2025年度 日本高校ランキング6位以内
- ★少年共通に①、②の条件を満たしている高校生と②を満たしている中学生がいる場合は、総合的に判断し選考する。
- ★300m・300mHの選考は、（300mは200mと400mの成績、300mHは400mHの成績）〈少年A・少年共通〉の選考条件①②に準ずる。ただし300mは1次、2次選考に複数該当者がいる場合、種目特性を踏まえ、総合的に判断することがある。
- ★全国高校総体で実施していない種目に関しては、第2次選考の対象とする。
- 〈 成年男子3000mSC・成年女子走高跳、棒高跳 〉 ※少年区分からもエントリーすることができる。
- ①日本選手権6位以内 ②2025年度日本ランキング6位以内
- ★①②のそれぞれ2つの条件を満たしている選手を選考の対象とする。
（複数の選手がいる場合は、総合的に判断し選考する）
- 〈 少年B 〉 次の2つの条件を満たしている選手を選考の対象とする。
- ①全国高校総体8位以内 ②2025年度日本高校ランキング8位以内
- ★複数の選手がいる場合は①を優先とするが、①②の条件を満たしている高校生と②を満たしている中学生がいる場合は、総合的に判断し選考する。
- ②全国高校総体に実施種目がない場合は、第2次選考の対象にする。

(2) 第2次選考基準

〈 成年 〉 次の2つの条件いずれかを満たした選手を選考の対象とし、総合的に判断し選考する。

- ① 日本選手権8位以内 ② 2025年度日本ランキング8位以内

★300mの選考は200mと400mの成績を上記の選考条件①②に準ずるようにする。ただし複数該当者がいる場合、種目特性やリレー種目を踏まえ、総合的に判断することがある。

〈 少年A 〉 次の2つの条件いずれかを満たした選手を選考の対象とし、総合的に判断し選考する。

- ① 全国高校総体8位以内 ② 2025年度日本高校ランキング8位以内

〈 成年男子3000mSC・成年女子走高跳、棒高跳 〉 次の2つの条件。※少年区分からもエントリーすることができる。

①②いずれかを満たした選手を選考の対象とし、総合的に判断し選考する。

- ① 日本選手権8位以内 ② 2025年度日本ランキング8位以内

〈 少年共通 〉

高校生：少年Aの選考基準（第2次選考）に準ずる。

中学生：2025年度日本高校ランキング8位以内相当の選手を選考の対象とし、総合的に判断し選考する。

〈 少年B 〉

2025年4月1日～8月11日までの競技会の成績・記録等を総合的に判断し選考する。

※2025年3月の競技会結果を参考資料とする場合もある。

〈 リレー 〉

4×100mRと4×400mR（男女混合）へのエントリーは、個人種目の選考状況で総合的に判断し選考する。

〈 全国高校総体で実施していない種目 〉

・各種大会の成績と2024・2025年度日本高校ランキングの結果等を総合的に判断し選考する。

★300m・300mHの選考は、（300mは200mと400m成績、300mHは400mHの成績）〈少年A・少年共通〉の選考条件①②に準ずる。ただし300mは複数該当者がいる場合、種目特性やリレー種目を踏まえ、総合的に判断することがある。

★2000mSCの選考は、2000mSCの予選会に出場した選手を選考の対象として、1500m、3000m、3000mSCの競技会の成績・結果等を総合的に判断し選考する。

(3) 第3次選考基準 〈 成年・少年・少年共通・少年B・リレー 〉

・入賞が期待できる選手を選考の対象として、2025年4月1日～8月11日までの競技会の成績・記録等を総合的に判断し選考する。

(4) 第4次選考基準 〈 成年・少年・少年共通・少年B・リレー 〉

・第3次選考まで選手が決定しない場合は、国スポ選考会までの全ての競技会の成績・記録等、2025年度のその種目の記録を日本・高校ランキング等と比較しながら、総合的に判断し選考する。